

## 令和5年度(2023年度)事業報告書

2022年10月1日から2023年9月30日まで

特定非営利活動法人 アジア失明予防の会

今年度の医療技術指導は、ベトナムではハノイ医科大学附属病院のHieu院長(心臓カテーテルの専門医)より、今後眼科に力を入れアイセンターの設立を考えているので、ぜひとも協力してもらいたいと懇願され、協力することになった。これは京都府立医科大学が同大学と相互協力(MOU)を結んでおり、眼科学教室はベトナムからの眼科医師の研修の受け入れをすでに行っていた。このMOUを動かすために今年度はハノイ医科大学より循環器内科、および腫瘍科より一人ずつベトナム人医師が京都府立医科大学で研修を行うことになっている。研修は双方に利点があることから今後とも続けていきたい。

現在、ベトナム国立眼科病院が機能不全(院長の汚職問題が主因)を起こしており、患者さんの治療が行えない状態となっている。そこで、私が教えた弟子らが日本国際眼科病院を始め、多くのプライベート眼科病院の施設から出張し、国立眼科病院で手術を行うなどの支援を行っている。またそうした病院から網膜硝子体手術の指導に来てもらいたいとの要請がある。ハノイ以外ではベトナム中部の眼科医療拠点であるフエ眼科病院での網膜硝子体手術の技術指導や教育を重点的に行ってきた。その結果、ほとんどの症例を任せられるようになりベトナム中部における中核病院が良いため、同病院は工事・拡張により手術室も新設される予定となっている。一方、木下医師を中心にタイのチュラロコン大学と眼科交流が深まり、京都府立医科大学学長からも称賛を得て、チュラロコン大学と京都府立医科大学間で交流が進められている。

治療支援事業は、2023年は日越外交樹立50周年の記念すべき年であり、ほぼ毎月のようにベトナムに渡航し、各地方において事前の準備や医療保健局や人民委員会と交渉し、無償の白内障手術『Save The Vision』プロジェクトなどがスムーズに実施できるように根回しをしてきた。またフエ眼科病院においては、ヒカリカナタ基金と協力して、20歳以下の子どもたちの治療を80名以上行い、大変好評を博した。フエ眼科病院は以前欧米の大きなNGOの支援で医療機器などを揃え、子供を中心とした治療のプロジェクトを数年にわたり行っており、麻酔科医師や形成外科医師も腕が良いため、フエ近郊だけでなく、200キロ以上離れた地方からも患者さんを受け入れる中で、今回の治療支援は、非常に素晴らしかったとのことで、できることなら来年度も延長して行ってほしいとの要望があった。

ところで、現在APBA Vietnam Teamには一つ問題があり、VietnamのAPBAのメンバーが各病院に分散したために、『Save The Vision』を行うときに、医師がそろわないことがあり、そうした時に現在はテレコム病院の副院長となったDuc医師は忙しいなか、自ら1日でも2日でも参加をしてくれて、また医療機器が故障した時なども、テレコム病院の白内障手術機器を持ってくるなど、自らの病院の眼科医師(白内障手術はBレベル)を参加させたりと、これまでの恩返しという事で積極的に支援をしてくれ助かっている。南部ではハノイ医科大学病院院長のHieu医師が管理するBinh Duong省総合メディカルセンター(ホーチミン市や近郊で爆発的にCOVID-19に感染した人々が増えた時、ベトナム政府はCOVID-19の責任者であったHieu院長に対して南部の感染をなんとかせよとのことで、3か月間継続して先頭に立ってこのBinh Duong総合メディカルセンターをCOVID-19の専門病院として、張り付いて治療を行い、行い多くの人々の命を救ったとしてベトナム政府から高い評価を得ている)にて貧しい人々の手術を積極的に行ってくださるとのことで、期限切れ間近のレンズを200枚相当を寄贈し、APBAの協力病院として活動も行ってもらっている。今年度無償手術ができたのは約1000名となっており、コロナ禍の影響があるものと思われたが予想以上に多くの人々に治療が行えた。

高校生のボランティア参加は3月に大阪国際大和田中等学校および滝井高校の生徒たちが参加。これまでコロナ禍で来れなかったために、先輩より現地のボランティアで何をするのか既にロールプレーなどを行っており、初日からきばきと機敏に手伝ってくれた。8月はYMSという医学部を目指す塾が新宿にあり、そこに通う高校生らが親の同伴のもと参加した。外国人のボランティア参加については、以前より厳しく規制されるようになり、現地の人民委員会および医療保健局等などと連携や調整をベトナムの事務局がしっかりとやってくれたため、プロジェクト実施時に日本人(外国人)の人数が多くても全く問題はなかった。若い世代でこうした経験ができることはとても素晴らしい事なのであり積極的に受け入れていきたい。引き続き彼らの安全確保などにも注意を払いながら、プロジェクトが無事に実施できる体制づくりを行っていききたい。また計画としては、モンゴルであったが、フィリピンとご縁ができたために、同国における事業を進めるべく、外国人医師がフィリピンで医療行為の許認可などの手続きなどを、現在RM財団の協力を得ながら行っている。

物資支援事業では、在越日本国大使館のご協力のお陰で、日本政府の草の根支援無償(SGA)が、今年度はHa Nam省において実施されることが決まった。以前よりフエ眼科病院は重点的に支援を行っており、眼内内視鏡のライトが暗くなって見えにくくなっていったため、昨年度にファイバーテックより購入していたFL301や23Gの内視鏡プローブなどを寄贈し網膜硝子体手術が充実した環境下でできるように支援をした。その結果、手術の成功率も高まったとのことで、非常に有効利用されている。保健省の監視が厳しく、期限の切れ恐れのある眼内レンズを使うことができず、度数の足りない眼内レンズを新たに約100枚購入した。必要物資なので購入はやむを得ず、また地方にいる人にとってこうした手術の機会は1回しかないもので、品質の良いレンズを選択した。昨年10月に直接渡邊総領事と面談の中で、「いつでも協力しますので良い案件があれば紹介してください」と、前向きな回答を得ることができた。手術用顕微鏡(OM-5)もこれまで70数万で購入してきたが、新商品(OM-6)となり価格も120万円以上し、この製品は世界で引き合いが強く、また発注しても半導体不足のためいつ納入できるかわからないと日本本社から回答があったため保留している。その他の医療資機材についても円安や輸入品の物価高の影響などで予算を大きくオーバーするため、来年度の為替動向などを鑑みて、購入するかどうか決めたい。ファイバーテック社の眼内内視鏡は倉庫代などがかかるとして、2022年内に在庫が解体処分されており、かろうじて1台を組み立ててもらい購入したが、フィリピンにもっていくのかモンゴルにもっていくのか決めかねているため、現在ファイバーテック社にて保管してもらっている。

宣伝広告および資金集めについては、昨年8月31日に服部医師が第64回Ramon Magsaysay賞受賞(アジアのノーベル賞)を受賞することがマスコミ発表され、さっそくNHKよりZOOMIによるインタビューの申し出があった。このインタビューはNHKワールドで8月31日の夜に流され、9月1日の全国紙の各社の社会面には共同通信が現地からインタビューをした記事が載せられた。ところで中京(東京)新聞は独自に、ZOOMIによるインタビューが行われ、それが大きな紙面を割いた記事となり、テレビ朝日は10月のピンフック省のプロジェクトにスタッフが同行し、インタビューを交えた番組を放送され、アジア失明予防の会の知名度は一気に上がり、HPのページビューも増えた。そして、11月30日の受賞式後にはNHKバンコク支局が服部医師のインタビューを行い、即日NHK総合1でニュースとして流された。2018年に日越45周年記念で制作されて2019年1月12日に放送された服部医師のドラマ『ベトナムのヒカリ』がNHKスペシャルで再放送され大きな反響があった。服部医師は今回の受賞でRM財団より40,000\$の賞金をいただくと同時に、ベトナムの失明予防の会に寄付した。エムスリー社などからは、社長個人および法人からも寄付がありまた継続的な支援のために、エムスリーのポイントを使った寄付制度を充実させた制度設計を行って貰っている。またリジュベネレーション社からも売り上げの一部を寄付したいとの申し出があり、今後の話し合いなどで寄付の金額が決まるが、継続的な支援をお願いする予定である。コロナ禍前はロクスタンジャパンより支援をうけていたが、コロナ禍では隔離政策などで私達は活動がほとんどできなかったため小児眼科学会に寄付を行っていたが、ロクスタンジャパンの担当者より、今年度より再びアジア失明予防の会に寄付をしてもらえるようにフランス本社に掛け合っていたにいたる。これまで通りに、ホームページの充実でDVD/レター・企業訪問・講演会やFBによるPR活動・クラウドファンディングなどで資金集めを行う予定である。

## 2023年度事業報告書

2022年10月1日から2023年9月30日まで  
 特定非営利活動法人 アジア失明予防の会

2 事業の実施に関する事項  
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	予算書 (千円)	支出見込み額 (千円)
医療技術指導①	眼科医療技術の教育・指導・普及や医療技術スタッフの派遣	年度内18回 70日 2022年10月～ 2023年9月	◎ベトナム ハノイ市（ハノイ医科大学付属病院、日本国際眼科病院）  ◎ベトナム-ビンフック省、クアンニン省（ハイハ、ドンティオ、モンカイ）、ニントアン省、ハナム省における地方医療センター等  ◎フエ眼科病院、ハイフォン眼科病院	7名	ベトナムの看護師など医療スタッフ	7,711	7,458
医療技術指導②	アジア諸国と日本の眼科医療従事者の技術・情報交流の促進	年度内1回	京都府立医科大学	4名	ハノイ医科大学医師2名	300	145
治療支援①	貧困により目の治療ができない人々への治療の斡旋・支援や眼科検診などの啓発活動	年度内18回 54日 864名	◎ベトナム ハノイ市・フエ市・ハイフォン市 ビンフック省、クアンニン省、ニントアン省、ハナム省	10名	ベトナムの貧困層の人々	10,008	13,013
治療支援②	アジア諸国の眼科患者の日本での治療の斡旋・支援	年度内0回		0		0	0
物資援助	眼科医療資機材などの提供	年度内4回	ベトナム		地方医療センター、フエ眼科病院	5,260	2,984
広報活動	ホームページ・DVD/レター・企業訪問・講演会やFBによるPR活動・チャリティーパーティーなど	随時公開	日本国内	4名	広く一般に	2,500	2,500